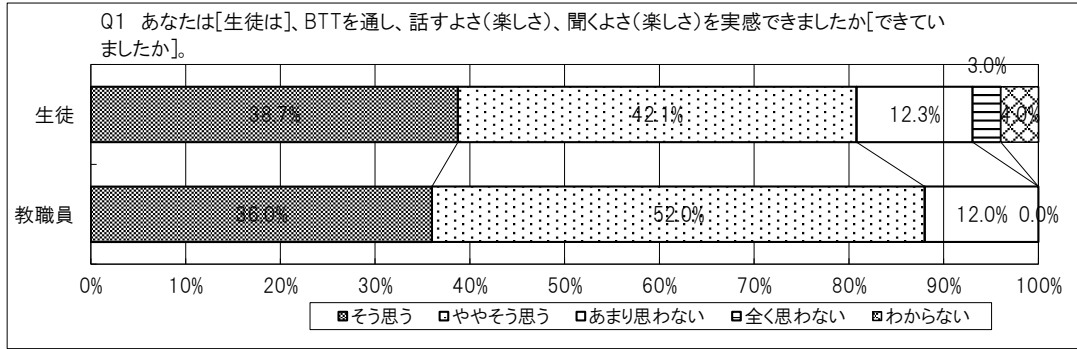
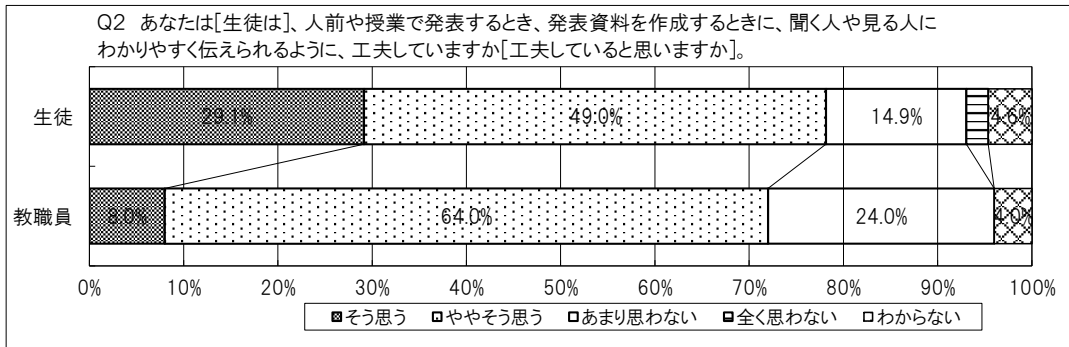


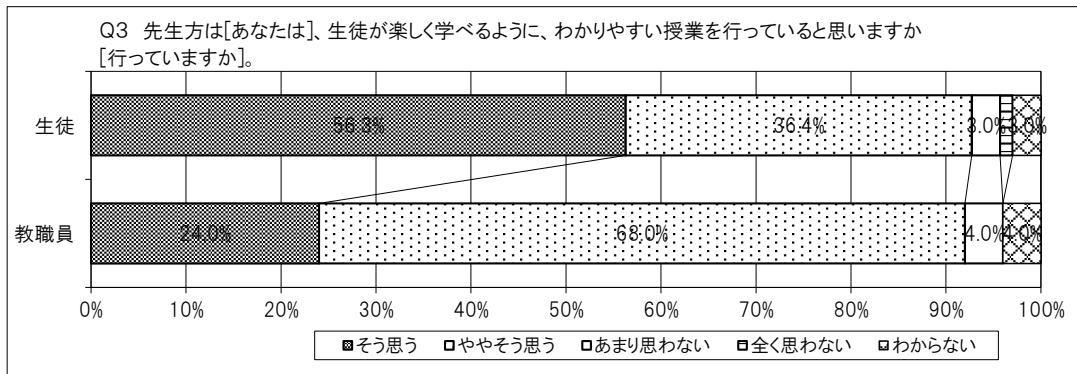
全校生徒、教職員 アンケート結果



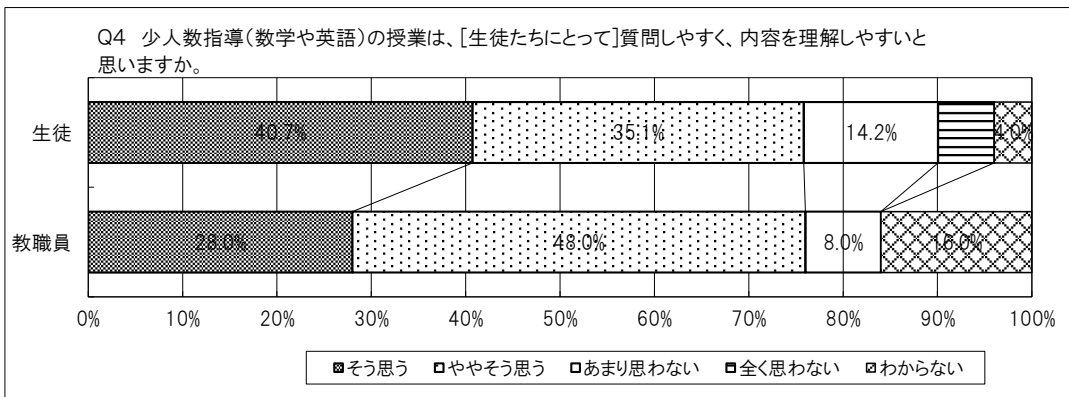
本年度から少人数のグループにしたり話を聞くための技術トレーニングしたりするなど、BTTの実施方法を変更しています。多くの生徒が活動に意義を感じています。今後も、話すよさ、話を聞くよさを感じられるように努めていきます。



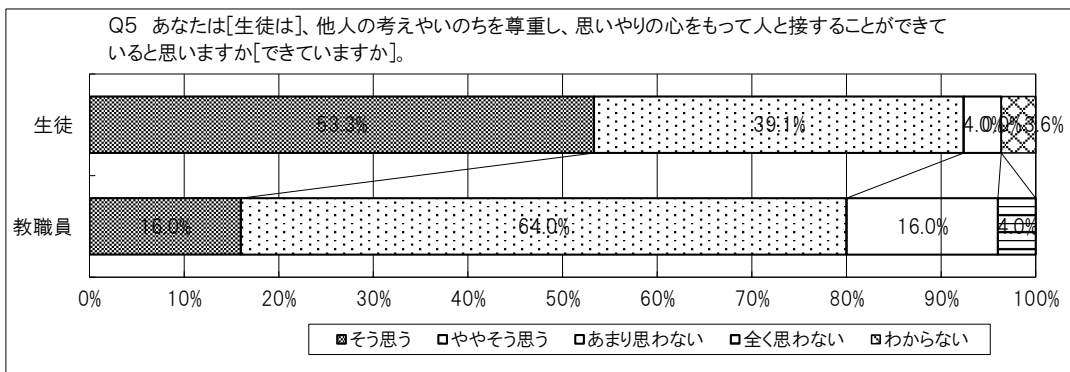
昨年度と同様に約8割の生徒が自分の考えをわかりやすく伝える工夫をしています。今後も授業の中で調べたことを発表したり、BTTで自分の考えを人に伝えたりする活動を大切にしていきます。また、発表をする際、タブレットを使用してプレゼンテーションをする授業も増えてきています。引き続き、他者意識をもって表現できるような授業づくりに努めていきます。



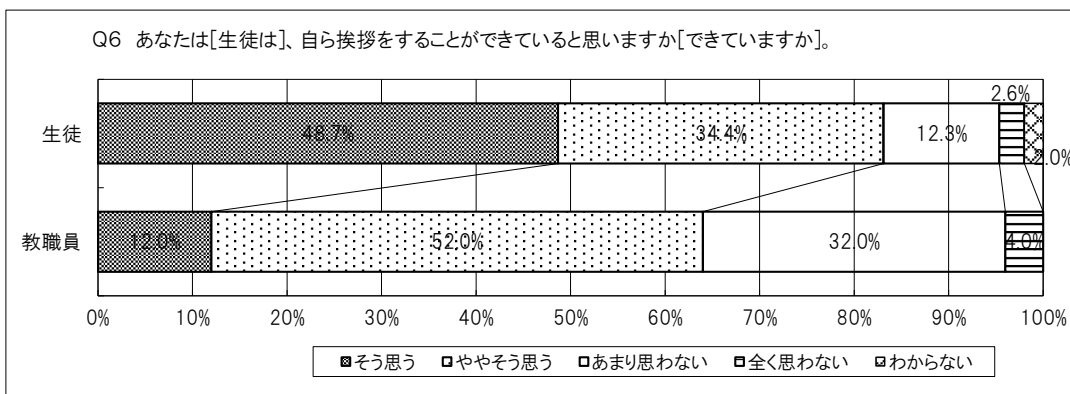
8割の生徒が、授業がわかりやすい、楽しいと評価をしています。2割の生徒がわからないところを抱えていることもうかがえます。一方、職員は自分の授業に対して満足していないようです。生徒たちが更に学びたいと感じる授業に向けて、研修や教材研究、ICT機器の活用を進め、よりわかりやすい授業づくりを目指していきます。



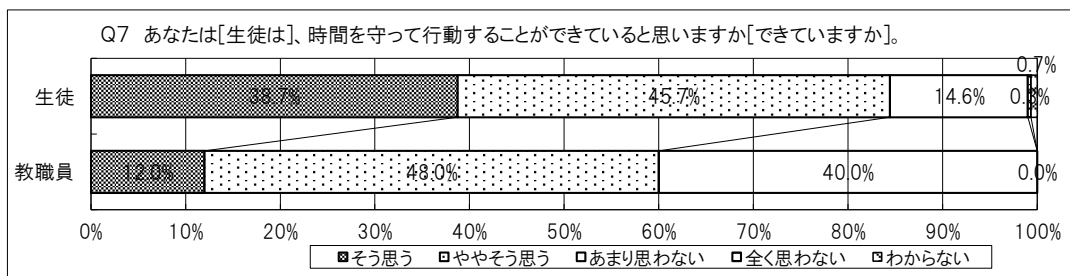
生徒・教職員共に約8割が少人数で学習することのよさを実感しています。本年度より1年生の英語で目的別コース選択制を導入しています。今後も更に個人の目的や個に応じた学びができるよう、教育環境に工夫をしながら取り組んでいきます。



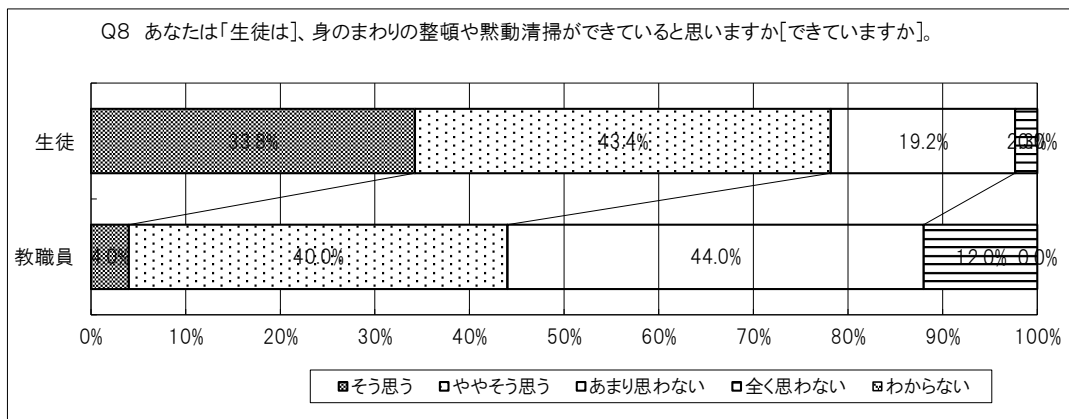
9割以上の生徒が、他人に対して思いやりをもって接していると考えています。また、実際の学校生活でも思いやりのある行動を何度も目にします。更にふだんの生活のさまざまな場面でよりよい行動がとれるような意識や人間関係を育てていきます。



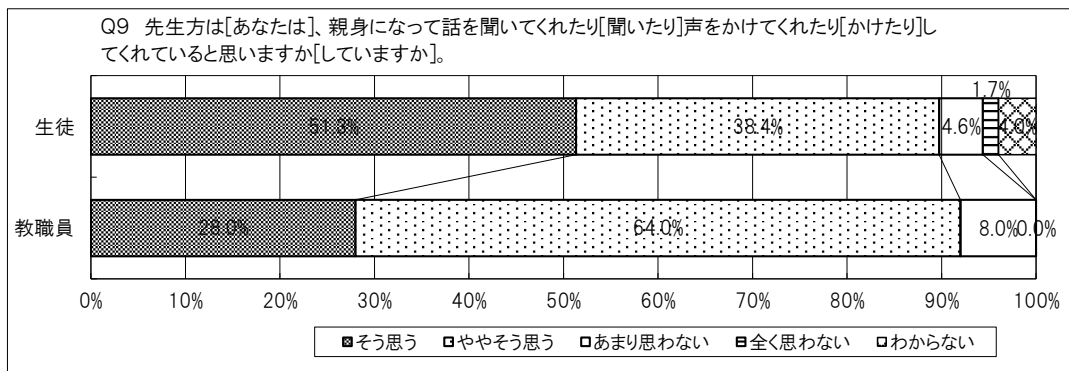
生徒の自己評価に対して、教職員の評価は厳しいものになっています。自分ではできているつもりでも、相手に伝わらないこともあるかもしれません。社会に出たときに、自然な挨拶のできることは、人として大切な力になります。自分からすすんで挨拶する習慣を身につけられるように、教職員が率先していきます。



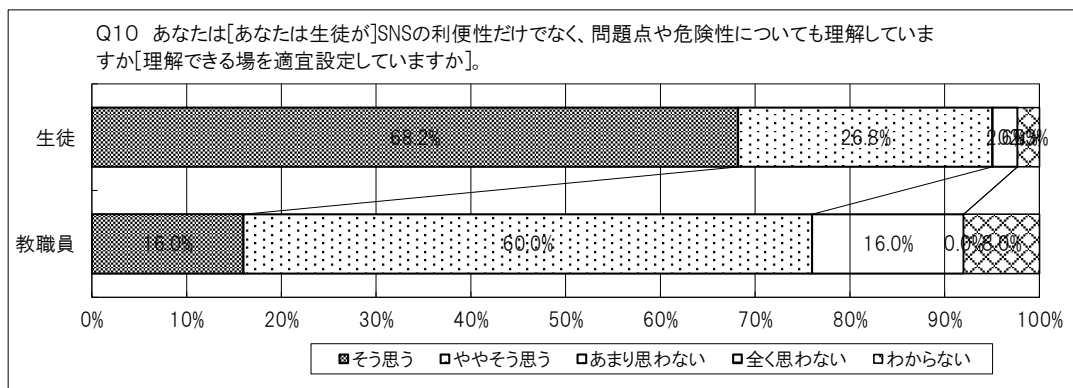
ノーチャームの中で、生徒たちは自分で時間を気にして行動しています。なんのために時間を守るのかについて、適宜生徒に問い直し、主体的にタイムマネジメントできるように、教職員も声をかけていきます。



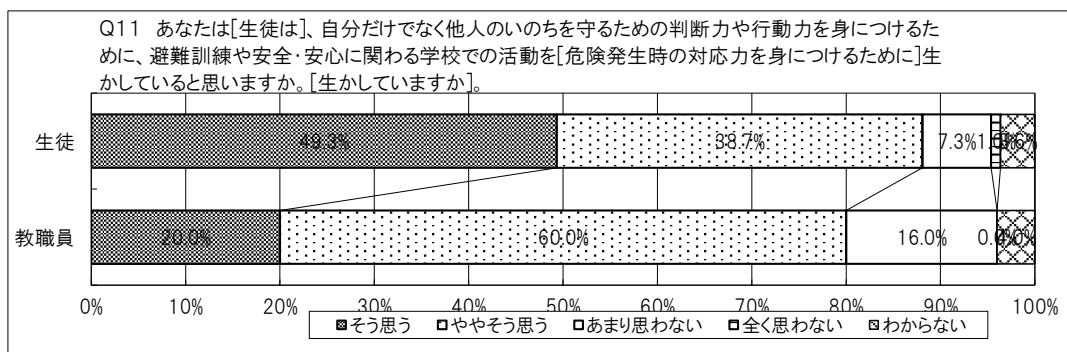
8割近くの生徒ができていると回答しています。それに対して、教職員の評価が低いのは、「もっとできるのではないか」という期待のあらわれです。生徒が自分たちで環境を整える意識をもてるように、また奉仕の心や気づき力を高められるように、清掃活動に力点を置いていきます。



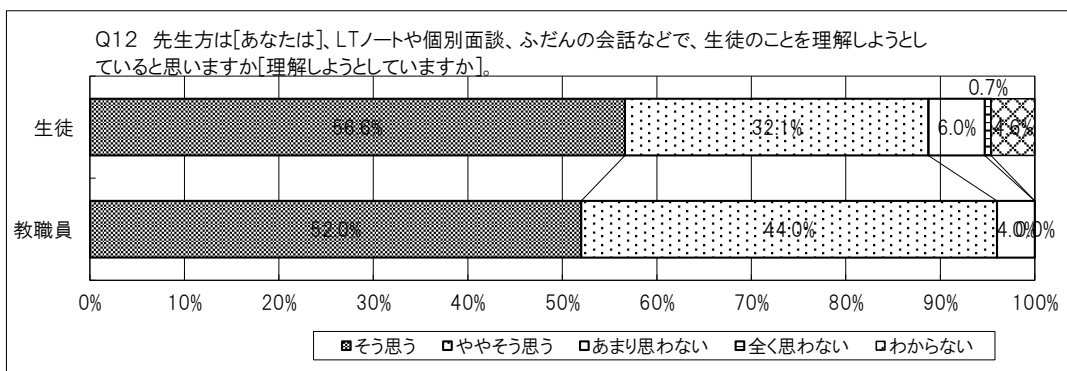
昨年度と同様に、約9割の生徒が、先生は話を聞いてくれたり声をかけたりしてくれていると答えています。今後も、教職員からの声かけを大切に、生徒が安心して登校できる環境づくりに努めます。



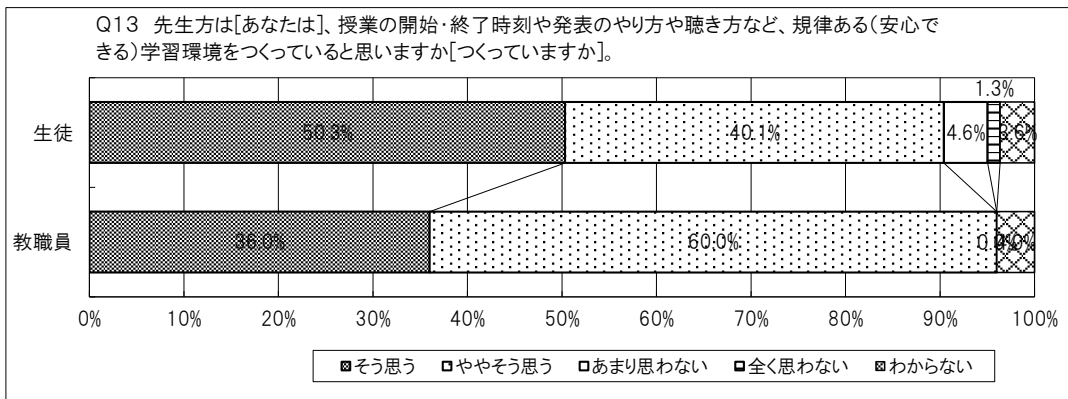
SNSの利便性や問題点については、9割以上の生徒が理解できていると回答しています。しかし、SNSのトラブルが発生していることも事実です。「わかっているつもり」ということのないよう、しかも正しい判断ができるようにスマホの使い方や危険性について学ぶ機会を増やしていきます。ご家庭でもお子さんのSNSの使い方について見守りをお願いいたします。



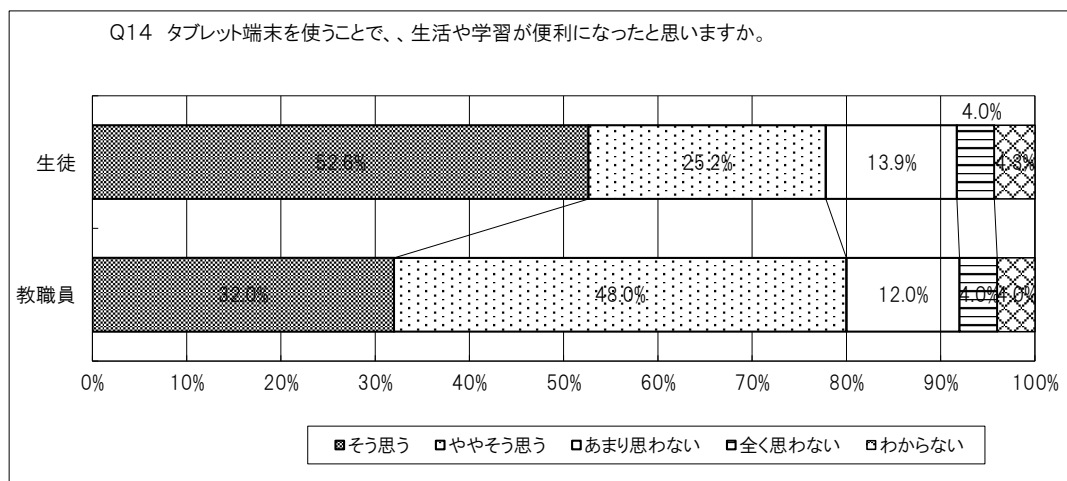
約9割の生徒がいのちを守る判断力や行動力を身につけていると回答しています。避難訓練では、全校で落ち着いて行動できるすばらしい姿があります。更に日常生活の中の安全・安心を各自が考えて生活できるよう声をかけていきます。なお、中学生として救助する側で活動する意識を高くもてるようにはたらきかけていきます。



生徒理解のための働きかけについて、生徒に高い評価を得ることができています。しかし、1割の生徒は、自分は理解されていないと感じています。今後も生活のあらゆる場面で全職員で全生徒を育てていきます。生徒と過ごす時間を大切に、学校生活のさまざまな場面で生徒理解を深めていけるよう努めていきます。



生徒・教職員共に、高い学習規律をもって授業が行われていると感じているようです。本校では、2022年版の「学びに向かう三か条」を設定し教室の前面に掲げてあります。これを意識することで、更なる学習規律の向上や、話し合い活動の充実を目指します。



生徒・教職員共に8割近くがタブレット端末の効果や利便性を実感しています。更に生活の中で便利になるための使い方や学習を深めるための活用方法等を生徒の声を聞きながら推し進めていきます。